第 59 回「山形県内企業の景気動向調査」確報

（令和元年 5 月調査）

～景況感は 2 期連続で改善ながら、先行きへの慎重姿勢続く～

【　調査の要旨　】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」が▲3.1（前回調査比 0.9 ポイント上昇）と***小幅ながら 2 期連続で改善***した。「各種ＤＩ値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」が悪化したものの、「資金繰り」が改善した。「人員・人手」は 2 期連続でプラス幅が縮小した。
- **業種別**に「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」をみると、建設業が 2.1（前回調査比 6.4 ポイント上昇）、製造業が▲3.1（前回調査比 5.5 ポイント下落）、卸・小売業が▲15.5（前回調査比 1.9 ポイント下落）、サービス業が 4.2（前回調査比 6.4 ポイント上昇）と、建設業とサービス業で改善となった一方、製造業と卸・小売業で悪化した。
- **地域別**に「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」をみると、村山南部が 3.7（前回調査比 1.8 ポイント下落）、村山北部が 8.7（前回調査比 21.2 ポイント上昇）、最上が 19.5（前回調査比 15.0 ポイント上昇）、置賜が▲13.2（前回調査比 2.1 ポイント下落）、庄内田川が▲14.3（前回調査比 5.5 ポイント下落）、庄内飽海が▲15.2（前回調査比 8.4 ポイント下落）と、村山南部、置賜、庄内田川、庄内飽海で悪化したものの、村山北部、最上で改善となった。村山北部ではＤＩ値がプラスに転じた。
- **先行き見通し**は「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」が▲18.8（今回調査比 15.7 ポイント下落）と大幅に悪化の見込みとなっている。

【特別調査】

- **夏季ボーナス**について尋ねたところ、全業種でみると、「支給する」と回答した企業の割合は 58.6%（前年比 0.1 ポイント低下）と、前年とほぼ同水準となった。
- **平成 31 年 4 月以降の賃金改定動向**について尋ねたところ、賃上げを実施する（した）企業の割合（「ベア・定昇とも実施」+「ベアのみ実施」+「定昇のみ実施」）は、全業種で 51.1%と前年に比べて 1.9 ポイント低下したものの、引き続き半数以上を占めた。

令和元年 6 月

株式会社　フィデア総合研究所

目次

I.　県内企業の業況 1
１．概況 1
２．業種別の動向 2
（１）　業種別の概況 2
（２）　業種別ＤＩ値の動向 3
①　建設業 3
②　製造業 5
③　卸・小売業 7
④　サービス業 9
３．地域別の動向 11
（１）　地域別の概況 11
（２）　地域別ＤＩ値の動向 12
①　村山南部 12
②　村山北部 13
③　最　上 14
④　置　賜 15
⑤　庄内田川 16
⑥　庄内飽海 17
II.　景気の天気予報図 18
III.　特別調査 19
１．夏季ボーナスについて 19
（１）　支給予定動向 19
（２）　支給予定額 21
２．春季以降の賃金改定動向について 23
＜参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率＞ 24
＜参考資料Ⅱ：調査の概要＞ 24

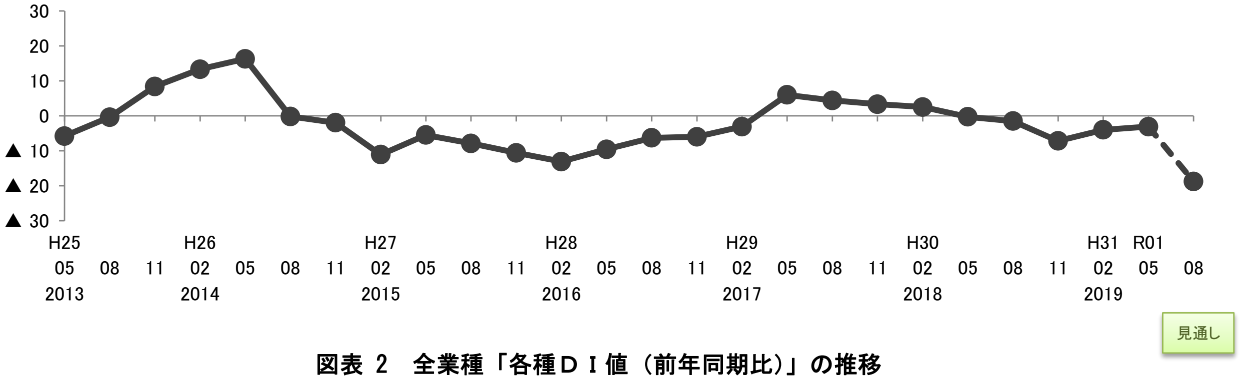
Ⅰ. 県内企業の業況

１．概況

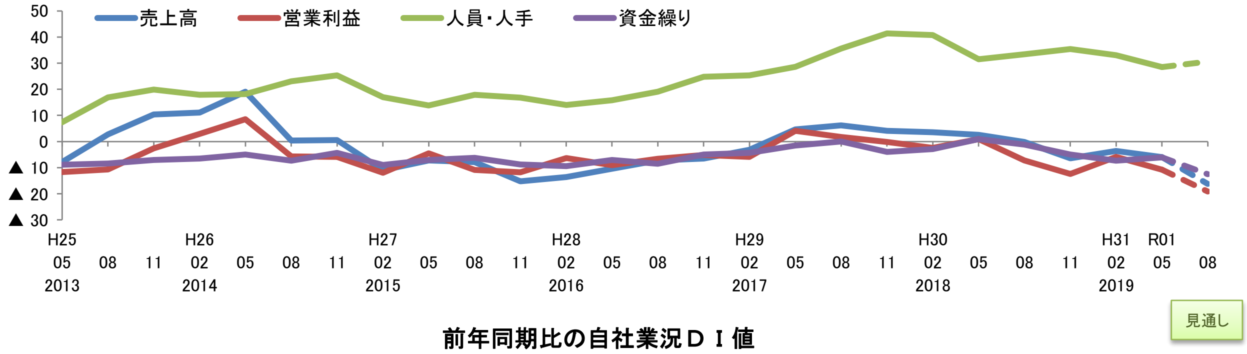
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」が▲3.1（前回調査比 0.9 ポイント上昇）と小幅ながら 2 期連続で改善した。「各種ＤＩ値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」が悪化したものの、「資金繰り」が改善した。「人員・人手」は 2 期連続でプラス幅が縮小した。

先行き見通しは、「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」が▲18.8（今回調査比 15.7 ポイント下落）と大幅に悪化の見込みとなっている。米中貿易摩擦や原材料費および燃料費の高止まりの影響などから慎重姿勢が続いているものと考えられる。

図表 1　全業種「自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



図表 2　全業種「各種ＤＩ値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況ＤＩ値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比） 全業種	前回調査比	前回調査予測	売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
H 30.05(n=426)	▲ 0.3	(▲ 2.8)	▲ 12.5	2.6	0.9	31.5	0.9
H 30.08(n=412)	▲ 1.5	(▲ 1.2)	▲ 9.6	▲ 0.2	▲ 7.2	33.4	▲ 1.2
H 30.11(n=418)	▲ 7.2	(▲ 5.7)	▲ 4.9	▲ 6.4	▲ 12.4	35.4	▲ 5.0
H 31.02(n=409)	▲ 4.0	(3.2)	▲ 8.9	▲ 3.6	▲ 5.9	33.0	▲ 7.3
R 01.05(n=415)	**▲ 3.1**	**(0.9)**	**▲ 20.8**	**▲ 6.0**	**▲ 10.8**	**28.5**	**▲ 6.1**
前回調査比	－	－	－	(▲ 2.4)	(▲ 4.9)	(▲ 4.5)	(1.2)
先行き見通し	**▲ 18.8**	**－**	**－**	**▲ 16.2**	**▲ 19.1**	**30.6**	**▲ 12.5**
今回調査比	(▲ 15.7)	－	－	(▲ 10.2)	(▲ 8.3)	(2.1)	(▲ 6.4)

※「売上高」ＤＩ値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

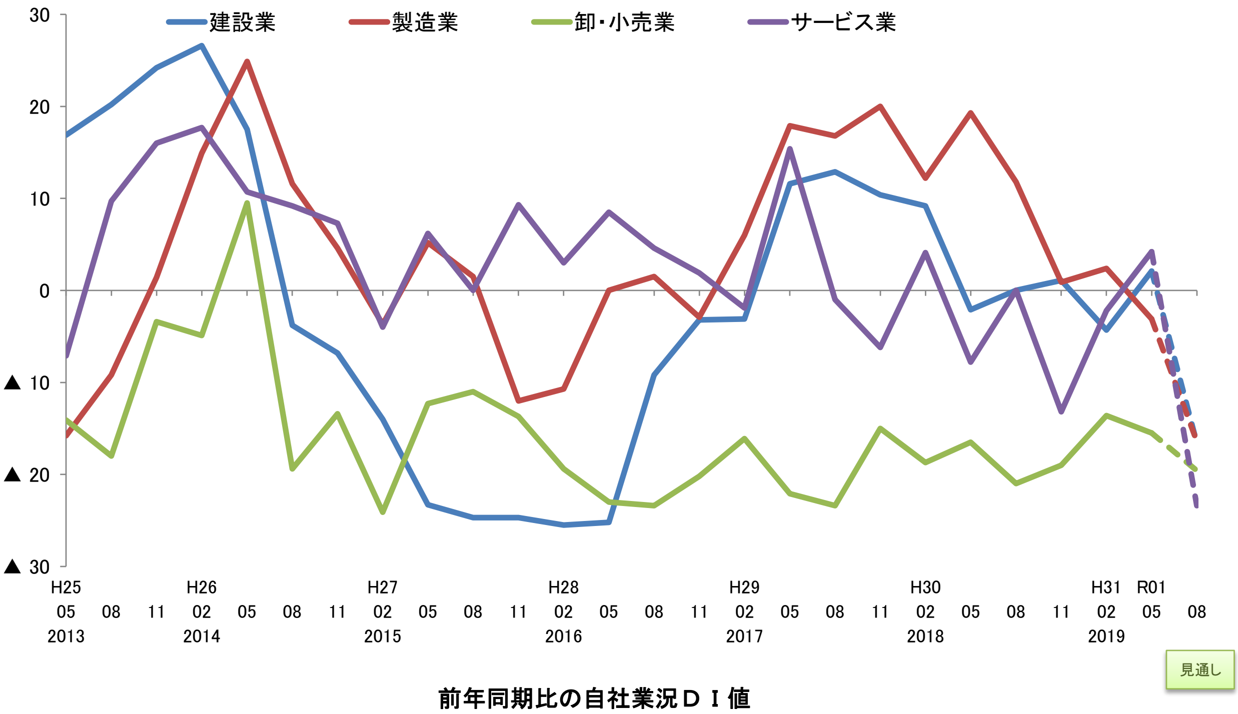
２． 業種別の動向

（１） 業種別の概況

業種別に「自社の業況ＤＩ値（前年同期比)」をみると、建設業が 2.1（前回調査比 6.4 ポイント上昇)、製造業が▲3.1（前回調査比 5.5 ポイント下落)、卸・小売業が▲15.5（前回調査比 1.9 ポイント下落)、サービス業が 4.2（前回調査比 6.4 ポイント上昇）と、建設業とサービス業で改善となった一方、製造業と卸・小売業で悪化した。

業況の先行き見通しは、すべての業種で悪化の見込みとなっている。

図表 3　業種別「自社業況ＤＩ値（前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況ＤＩ値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建 設	製 造	卸・小売	サービス
H 30.05(n=426)	▲ 0.3	▲ 2.1	19.3	▲ 16.5	▲ 7.8
H 30.08(n=412)	▲ 1.5	0.0	11.8	▲ 21.0	0.0
H 30.11(n=418)	▲ 7.2	1.1	0.9	▲ 19.0	▲ 13.2
H 31.02(n=409)	▲ 4.0	▲ 4.3	2.4	▲ 13.6	▲ 2.2
R 01.05(n=415)	▲ 3.1	2.1	▲ 3.1	▲ 15.5	4.2
前回調査比	(0.9)	(6.4)	(▲ 5.5)	(▲ 1.9)	(6.4)
先行き見通し	▲ 18.8	▲ 16.6	▲ 16.4	▲ 19.6	▲ 23.4
今回調査比	(▲ 15.7)	(▲ 18.7)	(▲ 13.3)	(▲ 4.1)	(▲ 27.6)

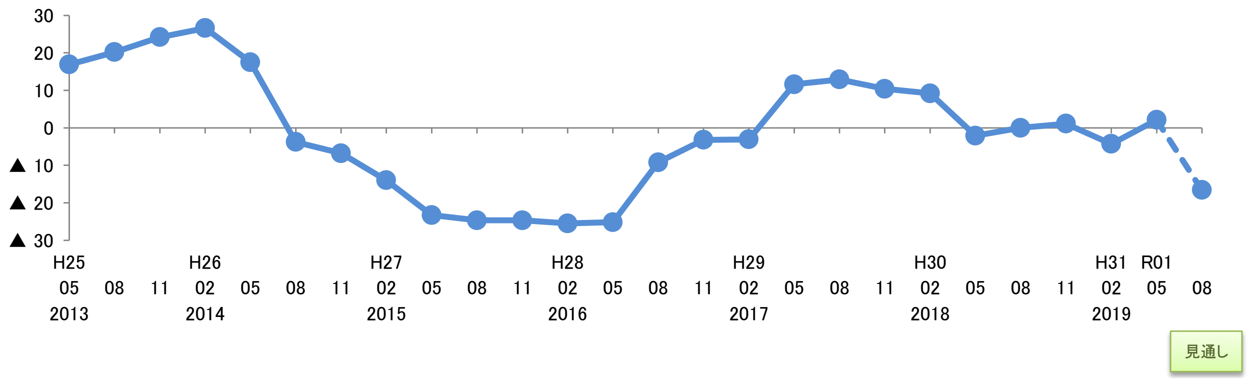
（２）業種別ＤＩ値の動向

①　建設業

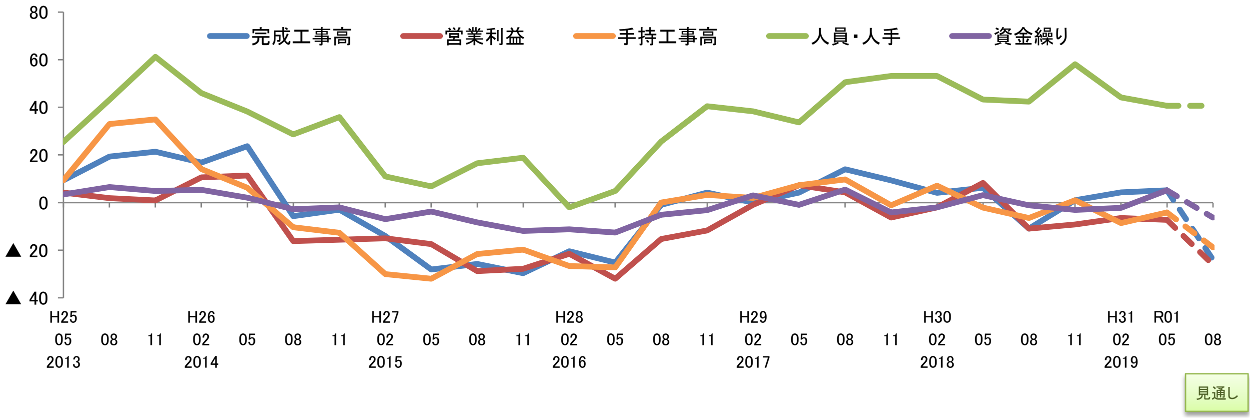
「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」は 2.1（前回調査比 6.4 ポイント上昇）と改善し、前回調査でマイナスに転じたＤＩ値が再びプラスとなり、一進一退の状況となっている。「各種ＤＩ値（前年同期比）」をみると、「営業利益」で若干悪化したものの、「完成工事高」「手持工事高」で改善した。「人員・人手」は 2 期連続でプラス幅が縮小となった。各社のコメントからは、地域によってばらつきはあるものの、公共工事が堅調に推移している状況がうかがえる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」が▲16.6（今回調査比 18.7 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 4　建設業「自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



図表 5　建設業「各種ＤＩ値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況ＤＩ値

建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）	前回調査比	前回調査予測	完成工事高	営業利益	手持工事高	人員人手	資金繰り
H 30.05(n=97)	▲ 2.1	(▲ 11.3)	▲ 23.5	6.2	8.3	▲ 2.1	43.3	3.1
H 30.08(n=92)	0.0	(2.1)	▲ 24.7	▲ 10.9	▲ 10.9	▲ 6.5	42.4	▲ 1.1
H 30.11(n=98)	1.1	(1.1)	▲ 10.9	1.0	▲ 9.2	1.0	58.1	▲ 3.1
H 31.02(n=93)	▲ 4.3	(▲ 5.4)	▲ 14.3	4.3	▲ 6.5	▲ 8.6	44.1	▲ 2.2
R 01.05(n=96)	2.1	(6.4)	▲ 27.9	5.2	▲ 7.3	▲ 4.2	40.6	5.2
前回調査比	−	−	−	(0.9)	(▲ 0.8)	(4.4)	(▲ 3.5)	(7.4)
先行き見通し	▲ 16.6	−	−	▲ 23.9	▲ 26.1	▲ 18.8	40.6	▲ 6.3
今回調査比	(▲ 18.7)	−	−	(▲ 29.1)	(▲ 18.8)	(▲ 14.6)	(0.0)	(▲ 11.5)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 前年の公共工事請負金額が低水準であったこともあり、前年比大きく増加しており、景気は良いと感じる。（村山南）
- 学校の冷房工事が増えたために、令和元年～2 年は、各設備業者は好決算である。（村山南）
- 社員の高齢化に伴い、現場代理人の担い手が不足している状況にある。（村山北）
- 昨年夏の大雨による災害工事の発注により、繁忙を極めている。今期決算は順調に終了した。（最上）
- 増税需要を期待したが、新築に向けた打合せの段階でそういった声は聞かれない。（置賜）
- 公共工事については、大きな金額での発注ではなく、低い金額で分散しての発注形態が増え、工事 1 件ごとの技術者の配置となるとますます技術者不足となる。（庄内田川）

Q. 来期の見通しや対策等について

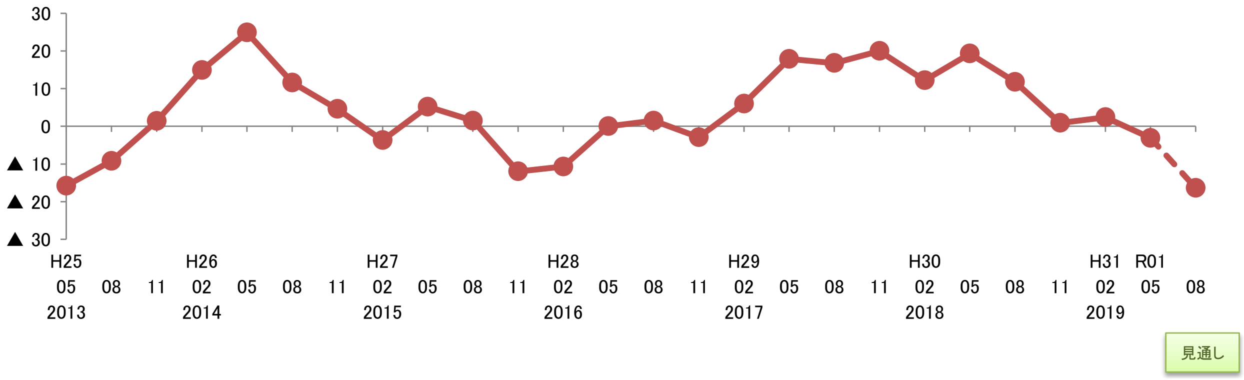
- 職人不足のため、急務な職種に関しては未取引会社を開拓している。人材派遣会社に、即戦力となりうる現場監督職情報を入手してアプローチを掛けている。（村山南）
- 働き方改革をいかに実行するかが今年度の課題となるが、実行できるか不安を抱えている同業他社が多く、業界でもいろいな勉強会等で対応している状況である。（村山南）
- 大型分譲地などが多い天童市や東根市では販売状況も良いようなので、当社にも建築の話がまわってきそうである。消費税増税後の落ち込みは小さいように思われる。国の対応策の効果があったように思う。（村山北）
- 消費増税前の最後の駆け込みに期待しているが、前回の時のような盛り上がり感に欠ける。来期は弱含み。（置賜）
- 高卒が地元に就職しないのがネックである。（庄内田川）
- 既存設備が老朽化しており計画的に設備更新していく。（庄内飽海）

② 製造業

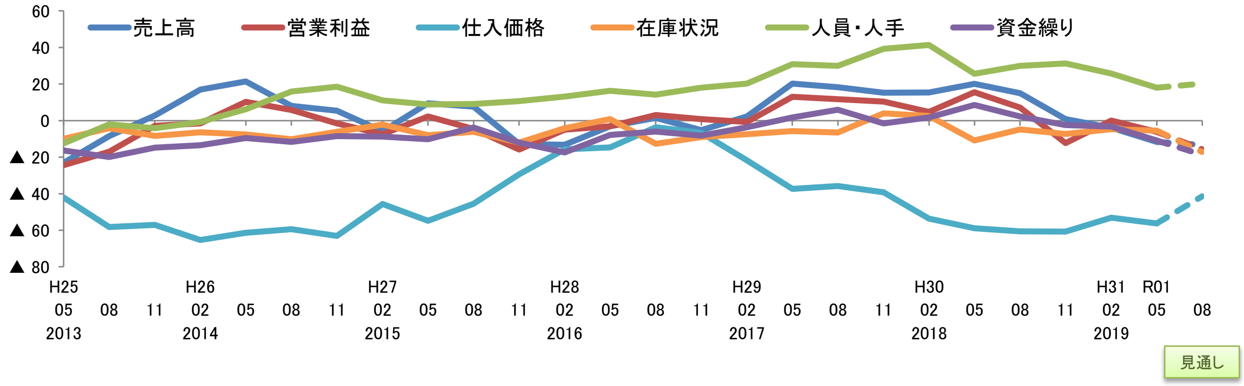
「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」は▲3.1（前回調査比 5.5 ポイント下落）と悪化し、ＤＩ値がマイナスに転じた。「各種ＤＩ値（前年同期比）」をみると、すべての項目で悪化となった。「人員・人手」は 2 期連続でプラス幅が縮小した。各社のコメントからは、原材料や運賃、賃金の上昇が利益を圧迫する状況がみられるほか、米中貿易摩擦の影響により半導体関連などで受注環境に悪化傾向がうかがえる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」が▲16.4（今回調査比 13.3 ポイント下落）とさらなる悪化が見込まれている。

図表 6　製造業「自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



図表 7　製造業「各種ＤＩ値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況ＤＩ値

製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
		前回調査比	前回調査予測						
H 30.05(n=129)	19.3	(7.1)	▲ 9.0	20.1	15.5	▲ 58.9	▲ 10.8	25.6	8.5
H 30.08(n=127)	11.8	(▲ 7.5)	1.6	15.0	7.1	▲ 60.6	▲ 4.8	29.9	2.3
H 30.11(n=122)	0.9	(▲ 10.9)	7.8	0.8	▲ 12.3	▲ 60.7	▲ 7.3	31.2	▲ 2.4
H 31.02(n=128)	2.4	(1.5)	1.7	▲ 3.9	0.0	▲ 53.1	▲ 4.7	25.8	▲ 3.2
R 01.05(n=128)	▲ 3.1	(▲ 5.5)	▲ 12.5	▲ 11.7	▲ 6.2	▲ 56.2	▲ 5.5	18.0	▲ 10.9
前回調査比	－	－	－	(▲ 7.8)	(▲ 6.2)	(▲ 3.1)	(▲ 0.8)	(▲ 7.8)	(▲ 7.7)
先行き見通し	▲ 16.4	－	－	▲ 13.3	▲ 15.7	▲ 41.5	▲ 17.2	20.3	▲ 18.7
今回調査比	(▲ 13.3)	－	－	(▲ 1.6)	(▲ 9.5)	(14.7)	(▲ 11.7)	(2.3)	(▲ 7.8)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 米中貿易摩擦の影響等を受け、半導体関連の受注減がかなり大きい。その反動が製造業全体に波及している。（村山北）
- 働き方改革への対応のため、大幅な労働時間短縮と生産性や効率の低下となるため、その補完を進めている。（最上）
- オリンピック関連の受注は好調なので、他の落ち込み分とあわせると前期並み。（置賜）
- 賃金の上昇にともない、売り上げも上昇とはいかず、利益の圧迫がじわりときている。（庄内田川）
- 原燃料価格の上昇にともなう値上げにより増収となったが、利益面ではコスト上昇により減益となった。（庄内飽海）

Q. 来期の見通しや対策等について

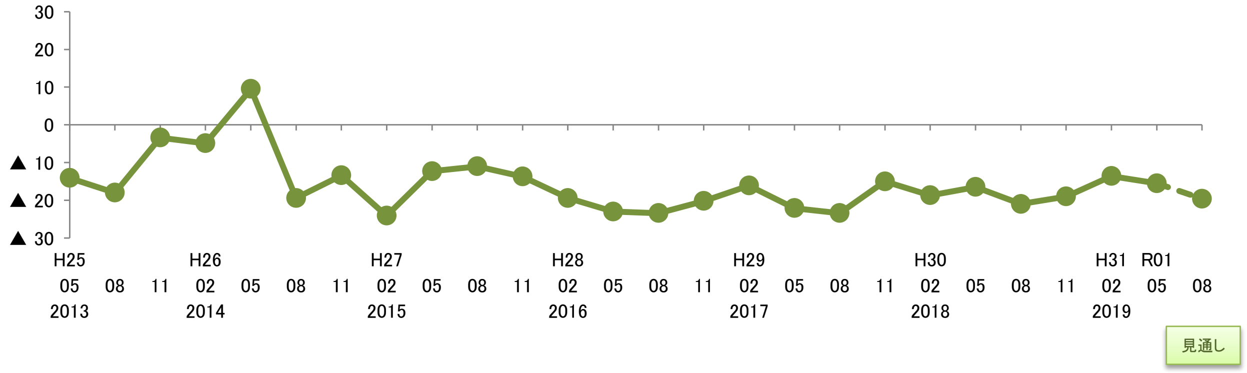
- 将来に向けた設備投資を着工する予定となっている。ロボットの導入など人材不足に対応していく。（村山南）
- 当初計画の売り上げは達成するものの、原材料の値上り（特に LP ガス）により収益確保は計画よりマイナスの見込み。（村山南）
- 半導体市場の回復が見通せない状況であり、上半期は厳しい見通し。（村山北）
- 昨年は大型野菜の物不足であった。今年は野菜原料の価格は下がったが、副資材の調味料や梱包資材等が値上げとなった。原料、運賃、人件費等が上昇するなかで、いかに省力化を図っていくかが問題となっている。（村山北）
- 日本人社員の入社が見込めないため、技能実習生で人員の不足を補う。（最上）
- 昨年より長期にわたり人員募集をしており、2 名の人員がようやく今年入社した。仕事量は手薄だが、今だからできる技術の継承を確実に実施したい。（置賜）
- 働き方改革に伴う人件費増加、設備投資に伴う償却負担、材料費の値上げ要請、運賃コストの上昇など原価への影響が大きく、受注残等の仕事の量は確保できているが、収益部分への圧迫要因は避けられない。（庄内飽海）

③ 卸・小売業

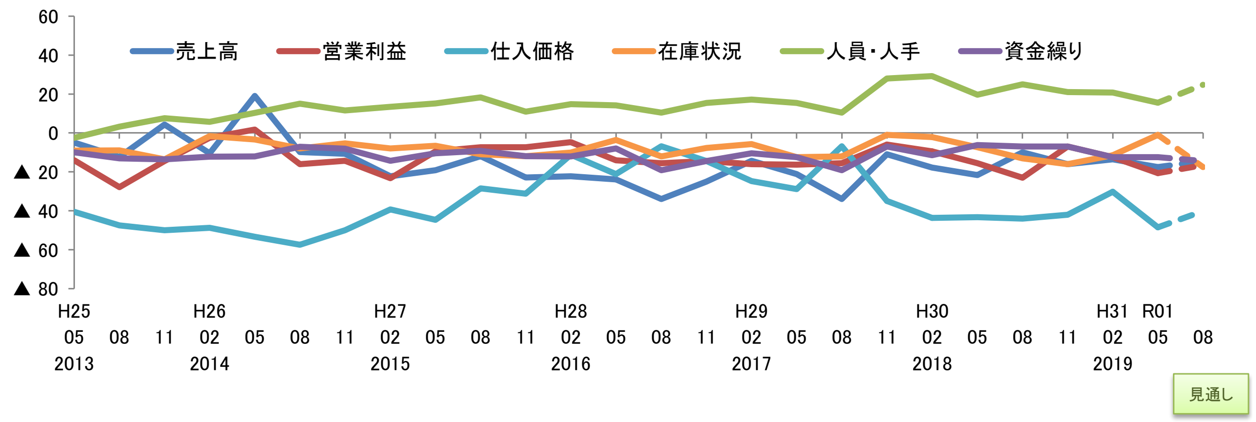
「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」は▲15.5（前回調査比 1.9 ポイント下落）と 3 期ぶりに悪化となった。「各種ＤＩ値（前年同期比）」をみると、「資金繰り」がほぼ横ばいとなり、「在庫状況」が改善したものの、「売上高」「営業利益」「仕入価格」で悪化となった。中でも「仕入価格」が大幅に悪化となっている。「人員・人手」は 3 期連続でプラス幅が縮小した。各社のコメントからは需要減退の継続や仕入価格上昇の影響がうかがえる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」が▲19.6（今回調査比 4.1 ポイント下落）と、悪化が見込まれている。

図表 8　卸・小売業「自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



図表 9　卸・小売業「各種ＤＩ値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況ＤＩ値

卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）	前回調査比	前回調査予測	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
H 30.05 (n=97)	▲ 16.5	(2.2)	▲ 15.6	▲ 21.7	▲ 15.5	▲ 43.3	▲ 7.3	19.6	▲ 6.2
H 30.08 (n=100)	▲ 21.0	(▲ 4.5)	▲ 5.2	▲ 10.0	▲ 23.0	▲ 44.0	▲ 13.0	25.0	▲ 7.0
H 30.11 (n=100)	▲ 19.0	(2.0)	▲ 15.0	▲ 16.0	▲ 7.0	▲ 42.0	▲ 16.0	21.0	▲ 7.0
H 31.02 (n=96)	▲ 13.6	(5.4)	▲ 15.0	▲ 13.5	▲ 12.5	▲ 30.2	▲ 11.5	20.8	▲ 12.5
R 01.05 (n=97)	▲ 15.5	(▲ 1.9)	▲ 31.3	▲ 17.5	▲ 20.7	▲ 48.5	▲ 1.0	15.5	▲ 12.4
前回調査比	－	－	－	(▲ 4.0)	(▲ 8.2)	(▲ 18.3)	(10.5)	(▲ 5.3)	(0.1)
先行き見通し	▲ 19.6	－	－	▲ 14.4	▲ 16.5	▲ 40.2	▲ 17.5	24.7	▲ 14.4
今回調査比	(▲ 4.1)	－	－	(3.1)	(4.2)	(8.3)	(▲ 16.5)	(9.2)	(▲ 2.0)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 需要減退が続く中、品不足と製品値上げの影響で、物の確保と価格交渉との両面で苦慮している。（村山南）
- 食品関連業界は、地方の少子高齢化による消費量や絶対額の減少要因が業況に影響している（村山北）
- 飲食店のお客様が主なので、景気に左右される部分が多く、なかなか盛り上がってこない。（村山北）
- ネット占有率が年々上がって店頭販売率が下がっている。地域の方も買いに来てくれず、見るだけの方が多い。（庄内田川）
- 暖冬の影響により暖房用燃料の販売が振るわなかった。（庄内飽海）
- 今期は前年同期に比べて雪も少なく、寒さも大したことがなかったので、売り上げは伸びずじまいだった。（庄内飽海）

Q. 来期の見通しや対策等について

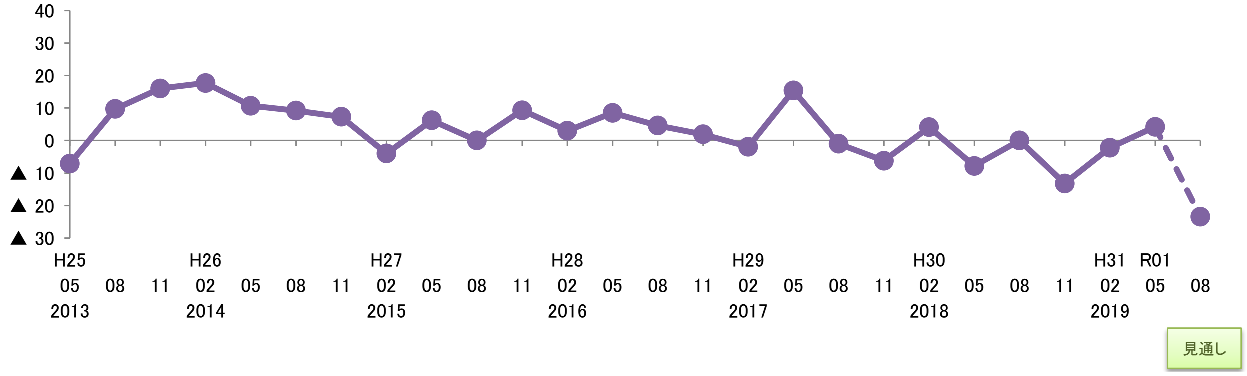
- 前期の反省を踏まえ、営業活動に注力しており業況回復の兆しがある。（村山南）
- GWの 10 連休で、モノとコト双方にそれなりに消費していると思うので、これからしばらく、ますますモノは動かなくなり、厳しい状況が続くと思われる。（村山南）
- スタッフの数に余裕がなく、欠員が出ればすぐに支障が出てしまう状態で、働き方改革の有給休暇付与等にも支障があるため、パートスタッフの一部を正社員化する。（村山南）
- 10 月に増税があるので、消費者も本当に必要なものを考えて購入している。またインターネットの普及により、ネット通販で購入する割合も増えてきている。（置賜）
- 観光客が増えて飲食事業は堅調な推移を維持できると思うが、地元の消費は人口減少による冷え込みで売り上げ増の期待はできない。（置賜）
- 働き方改革の対応で頭が痛い。働くことより休むこと優先の考え方で、商売に関してはどうなることかと、同業者の間でも話題になっている。（庄内飽海）

④　サービス業

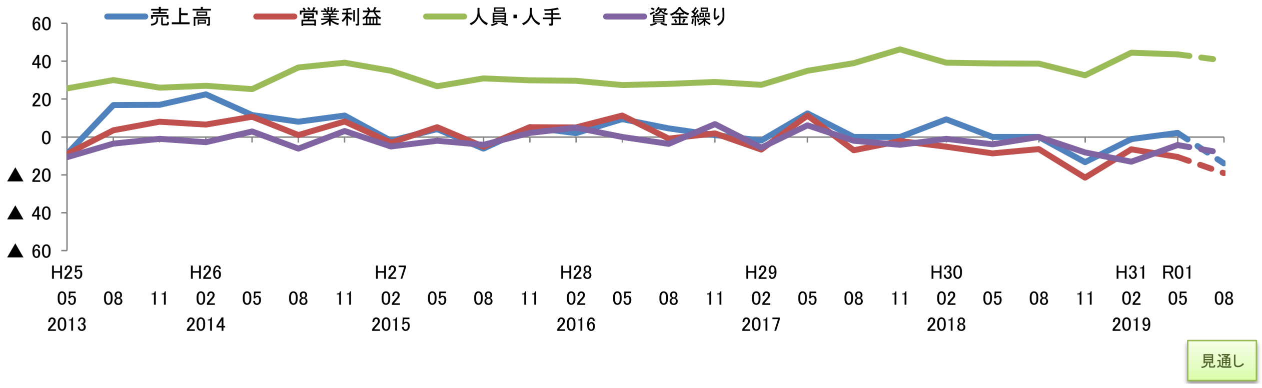
「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」は 4.2（前回調査比 6.4 ポイント上昇）と 2 期連続で改善し、ＤＩ値がプラスに転じた。「各種ＤＩ値（前年同期比）」をみると、「営業利益」が悪化したものの、「売上高」「資金繰り」で改善となった。「人員・人手」は若干プラス幅が縮小となった。各社のコメントから、宿泊や観光関連の一部で改善の動きがうかがえる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」が▲23.4（今回調査比 27.6 ポイント下落）と大幅に悪化の見込みとなっている。

図表 10　サービス業「自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



図表 11　サービス業「各種ＤＩ値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況ＤＩ値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）	前回調査比	前回調査予測	売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
H 30.05（n=103）	▲ 7.8	(▲ 11.9)	▲ 3.1	0.0	▲ 8.7	38.8	▲ 3.9
H 30.08（n=93）	0.0	(7.8)	▲ 13.5	0.0	▲ 6.4	38.7	0.0
H 30.11（n=98）	▲ 13.2	(▲ 13.2)	▲ 5.4	▲ 13.3	▲ 21.5	32.6	▲ 8.2
H 31.02（n=92）	▲ 2.2	(11.0)	▲ 10.2	▲ 1.1	▲ 6.5	44.5	▲ 13.1
R 01.05（n=94）	**4.2**	**(6.4)**	**▲ 14.1**	**2.2**	**▲ 10.6**	**43.6**	**▲ 4.3**
前回調査比	－	－	－	(3.3)	(▲ 4.1)	(▲ 0.9)	(8.8)
先行き見通し	**▲ 23.4**	**－**	**－**	**▲ 13.9**	**▲ 19.1**	**40.4**	**▲ 8.6**
今回調査比	(▲ 27.6)	－	－	(▲ 16.1)	(▲ 8.5)	(▲ 3.2)	(▲ 4.3)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 春節等でのインバウンド効果が大きかった。（村山南）
- 業務上の購入品や処分費の値上げが厳しいなどいろいろな面で大変で、利益がなかなか伸びないが、売り上げは若干伸びている。（村山南）
- 高齢化による市場の縮小が目立ってきた。安全装置による事故の減少により板金作業が減ってきた。（村山北）
- 旺盛なインバウンド需要により国際チャーター便を利用した訪日外国人利用客が増加している。（村山北）
- 今期（1 月～3 月）は雪が少なく除雪に係る経費を抑えることができ、営業収益増加に貢献。（庄内田川）
- 売り上げは上がっても、収益確保が難しい。経費（特に人件費）が上昇している。（庄内飽海）

Q. 来期の見通しや対策等について

- 外国人高度技能者の積極的受入れ、若手人材の採用を検討している。若者に地元に定着してほしい。（村山南）
- 運賃単価は上昇しているが、従業員の労働条件改善、賃金アップ等の実施、外注費単価の上昇もあり、利益水準としては前年を大きく下回る見込み。（村山南）
- 10 連休の反動で、宿泊旅行を手控える傾向が心配である。夏に向かってプロモーションを強化して売り上げを確保する。（置賜）
- 最低賃金のアップで、賃金引上げを毎年実施している。お客様に対する価格を同時に値上げしなければならない現象が続き、お客様離れが起き始めている。（庄内田川）
- 若干名人材を増やしたいが、新人を育てる余力がない。ある程度スキルを保有した人材の中途採用を模索しているが、なかなか見つからない。（庄内田川）
- 今期は高稼働で推移したものの、来期は大型連休による不稼働により売り上げが大幅に減少する見込み。（庄内飽海）

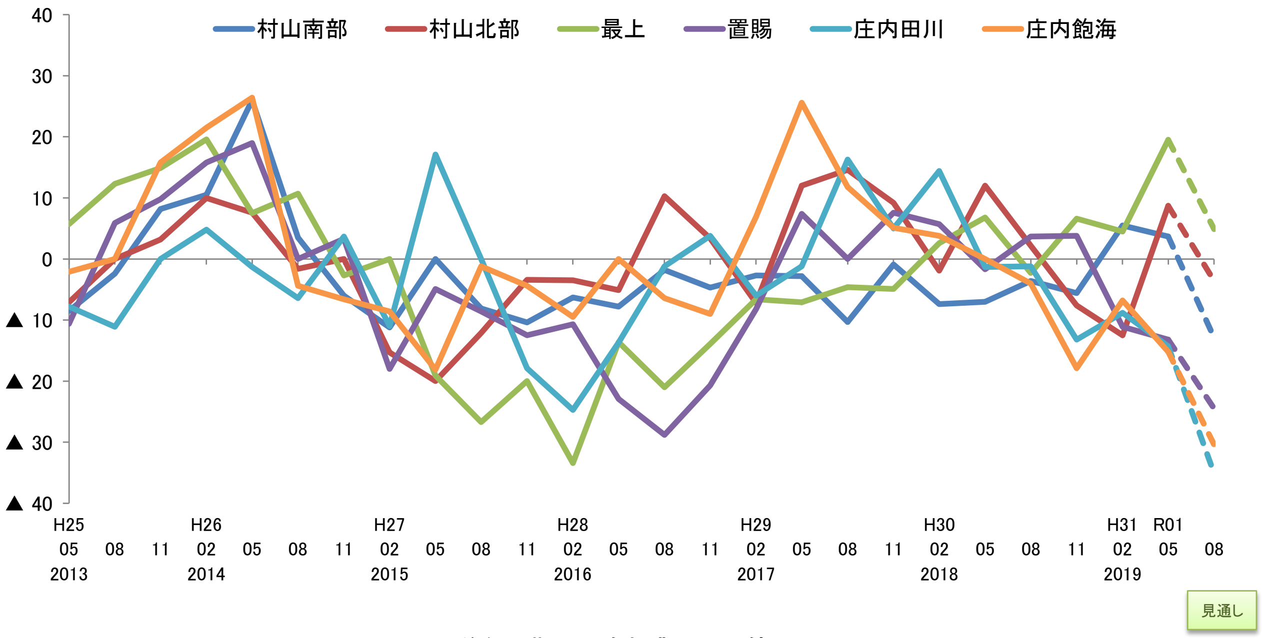
３．地域別の動向

（１）地域別の概況

地域別に「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」をみると、村山南部が 3.7（前回調査比 1.8 ポイント下落）、村山北部が 8.7（前回調査比 21.2 ポイント上昇）、最上が 19.5（前回調査比 15.0 ポイント上昇）、置賜が▲13.2（前回調査比 2.1 ポイント下落）、庄内田川が▲14.3（前回調査比 5.5 ポイント下落）、庄内飽海が▲15.2（前回調査比 8.4 ポイント下落）と、村山南部、置賜、庄内田川、庄内飽海で悪化したものの、村山北部、最上で改善となった。村山北部ではＤＩ値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しをみると、すべての地域で大幅な悪化が見込まれている。

図表 12　地域別「自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況ＤＩ値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比） 全地域	村山南部	村山北部	最 上	置 賜	庄内田川	庄内飽海
H 30.05(n=426)	▲ 0.3	▲ 7.0	12.0	6.8	▲ 1.7	▲ 1.3	0.0
H 30.08(n=412)	▲ 1.5	▲ 3.6	2.2	▲ 2.3	3.7	▲ 1.2	▲ 4.0
H 30.11(n=418)	▲ 7.2	▲ 5.6	▲ 7.6	6.6	3.8	▲ 13.2	▲ 17.9
H 31.02(n=409)	▲ 4.0	5.5	▲ 12.5	4.5	▲ 11.1	▲ 8.8	▲ 6.8
R 01.05(n=415)	▲ 3.1	3.7	8.7	19.5	▲ 13.2	▲ 14.3	▲ 15.2
前回調査比	(0.9)	(▲ 1.8)	(21.2)	(15.0)	(▲ 2.1)	(▲ 5.5)	(▲ 8.4)
先行き見通し	▲ 18.8	▲ 12.9	▲ 3.6	4.9	▲ 24.5	▲ 35.1	▲ 30.4
今回調査比	(▲ 15.7)	(▲ 16.6)	(▲ 12.3)	(▲ 14.6)	(▲ 11.3)	(▲ 20.8)	(▲ 15.2)

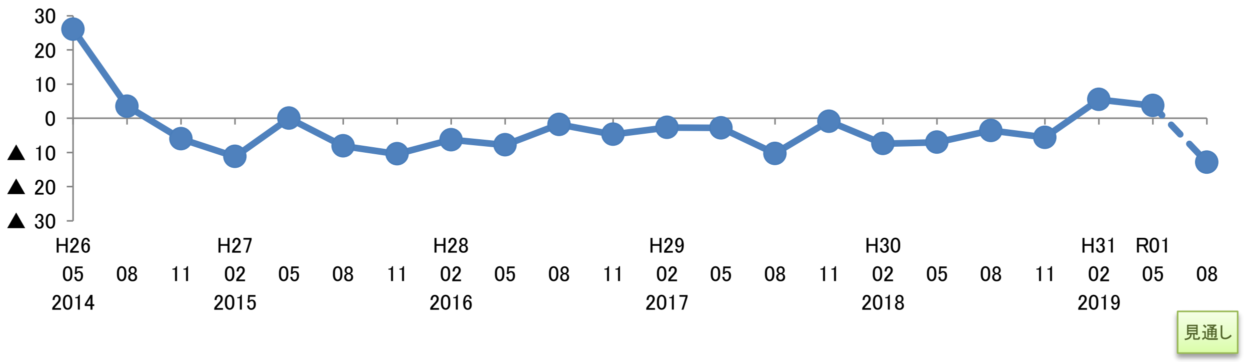
（２）地域別ＤＩ値の動向

①　村山南部

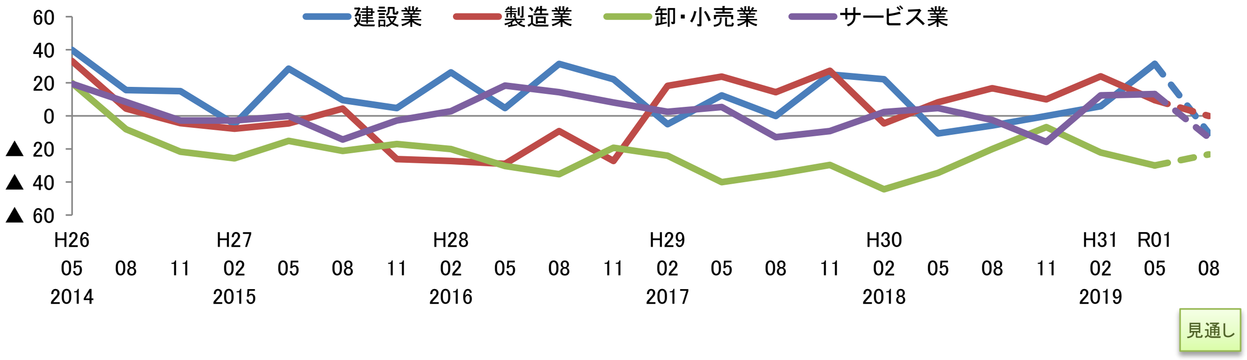
「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」は 3.7（前回調査比 1.8 ポイント下落）と若干悪化した。業種別にみると、建設業で改善、サービス業でほぼ横ばいとなっているものの、製造業と卸・小売業で悪化となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」が▲12.9（今回調査比 16.6 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 13　村山南部「自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



図表 14　村山南部「業種別・自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況ＤＩ値

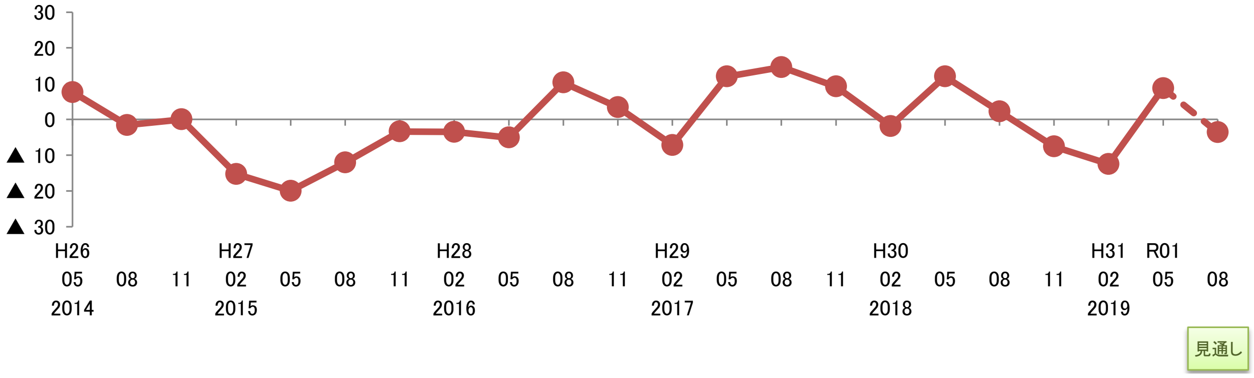
村山南部		自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
調査時（サンプル数）		全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービス
H 30.05(n=114)		▲ 7.0	(0.4)	▲ 10.2	▲ 10.6	8.3	▲ 34.5	4.8
H 30.08(n=112)		▲ 3.6	(3.4)	▲ 9.6	▲ 5.8	16.7	▲ 20.0	▲ 2.4
H 30.11(n=106)		▲ 5.6	(▲ 2.0)	▲ 9.8	0.0	10.0	▲ 6.7	▲ 15.8
H 31.02(n=109)		5.5	(11.1)	▲ 8.5	5.8	24.0	▲ 22.2	12.5
R 01.05(n=108)		3.7	(▲ 1.8)	▲ 12.9	31.5	9.6	▲ 30.0	13.2
	前回調査比	－	－	－	(25.7)	(▲ 14.4)	(▲ 7.8)	(0.7)
先行き見通し		▲ 12.9	－	－	▲ 10.5	0.0	▲ 23.3	▲ 13.2
	今回調査比	(▲ 16.6)	－	－	(▲ 42.0)	(▲ 9.6)	(6.7)	(▲ 26.4)

② 村山北部

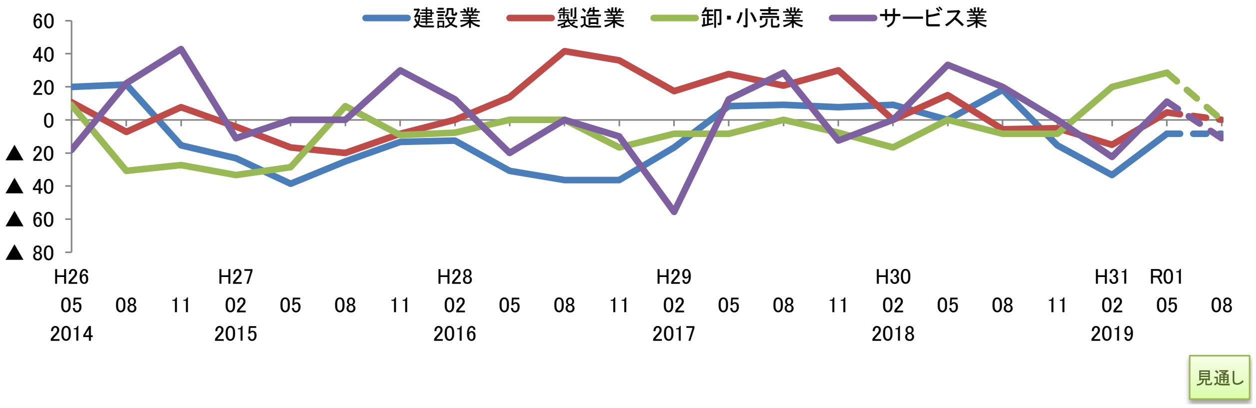
「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」は 8.7（前回調査比 21.2 ポイント上昇）と 4 期ぶりに大幅に改善した。業種別にみても、すべての業種で改善となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」が▲3.6（今回調査比 12.3 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 15 村山北部「自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



図表 16 村山北部「業種別・自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況ＤＩ値

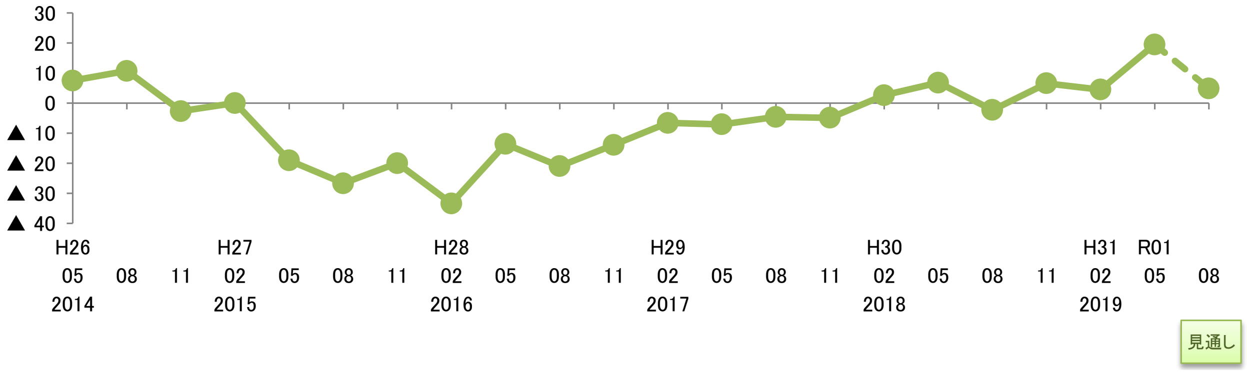
村山北部	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
調査時（サンプル数）	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービス
H 30.05(n=50)	12.0	(13.9)	▲ 5.8	0.0	15.0	0.0	33.3
H 30.08(n=46)	2.2	(▲ 9.8)	18.0	18.2	▲ 5.6	▲ 8.3	20.0
H 30.11(n=53)	▲ 7.6	(▲ 9.8)	8.7	▲ 15.4	▲ 5.0	▲ 8.3	0.0
H 31.02(n=48)	▲ 12.5	(▲ 4.9)	1.9	▲ 33.3	▲ 15.0	20.0	▲ 22.3
R 01.05(n=57)	**8.7**	**(21.2)**	**▲ 31.3**	**▲ 8.4**	**4.6**	**28.6**	**11.1**
前回調査比	－	－	－	(24.9)	(19.6)	(8.6)	(33.4)
先行き見通し	**▲ 3.6**	**－**	**－**	**▲ 8.3**	**0.0**	**0.0**	**▲ 11.1**
今回調査比	(▲ 12.3)	－	－	(0.1)	(▲ 4.6)	(▲ 28.6)	(▲ 22.2)

③ 最　上

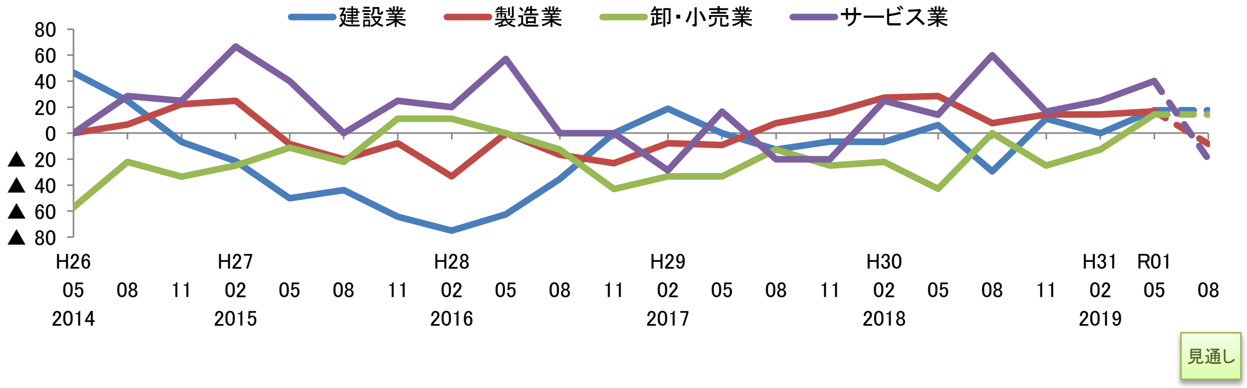
「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」は 19.5（前回調査比 15.0 ポイント上昇）と改善した。業種別にみても、すべての業種で改善となっている。各社のコメントから、建設業で昨年の大雨による災害復旧関連工事が増加している状況がみられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」が 4.9（今回調査比 14.6 ポイント下落）と大幅に悪化の見込みとなっている。

図表 17　最上「自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



図表 18　最上「業種別・自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況ＤＩ値

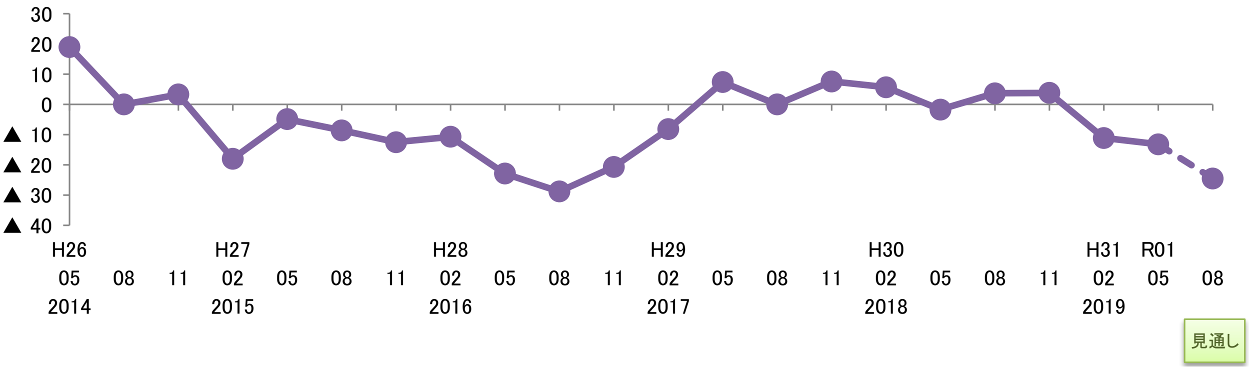
最　上	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
調査時（サンプル数）	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービス
H 30.05(n=44)	6.8	(4.2)	▲ 12.8	6.2	28.6	▲ 42.8	14.2
H 30.08(n=43)	▲ 2.3	(▲ 9.1)	▲ 18.2	▲ 29.4	7.7	0.0	60.0
H 30.11(n=46)	6.6	(8.9)	▲ 7.0	11.1	14.3	▲ 25.0	16.6
H 31.02(n=44)	4.5	(▲ 2.1)	0.0	0.0	14.3	▲ 12.5	25.0
R 01.05(n=41)	**19.5**	**(15.0)**	**▲ 9.0**	**17.7**	**16.7**	**14.3**	**40.0**
前回調査比	－	－	－	(17.7)	(2.4)	(26.8)	(15.0)
先行き見通し	**4.9**	**－**	**－**	**17.7**	**▲ 8.3**	**14.3**	**▲ 20.0**
今回調査比	(▲ 14.6)	－	－	(0.0)	(▲ 25.0)	(0.0)	(▲ 60.0)

④　置　賜

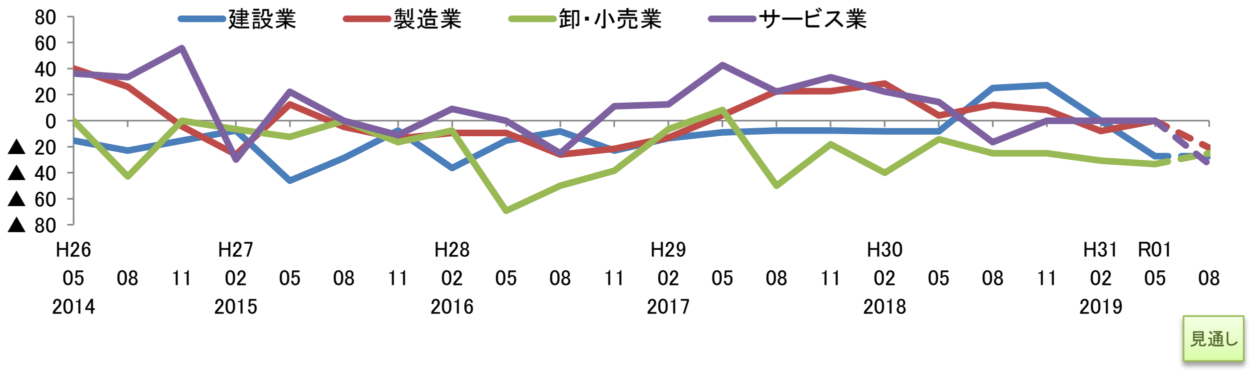
「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」は▲13.2（前回調査比2.1ポイント下落）と2期連続で悪化となった。業種別にみると、製造業で改善、サービス業で横ばいとなったものの、建設業と卸・小売業で悪化した。

業況の先行き見通しは、「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」が▲24.5（今回調査比11.3ポイント下落）とさらなる悪化が見込まれている。

図表 19　置賜「自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



図表 20　置賜「業種別・自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況ＤＩ値

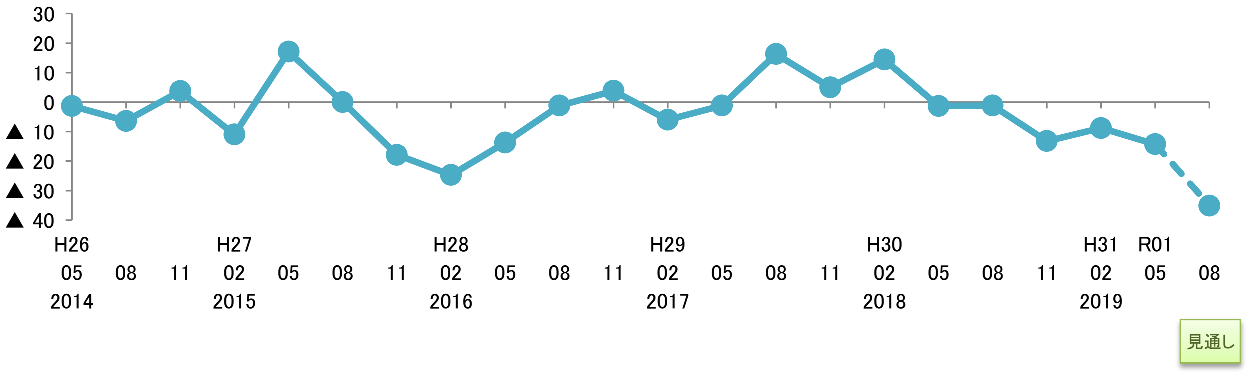
置　賜	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
調査時（サンプル数）	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービス
H 30.05(n=58)	▲ 1.7	(▲ 7.4)	▲ 19.3	▲ 8.3	4.0	▲ 14.3	14.3
H 30.08(n=55)	3.7	(5.4)	0.0	25.0	12.0	▲ 25.0	▲ 16.6
H 30.11(n=53)	3.8	(0.1)	0.0	27.3	8.3	▲ 25.0	0.0
H 31.02(n=54)	▲ 11.1	(▲ 14.9)	▲ 9.4	0.0	▲ 8.0	▲ 30.8	0.0
R 01.05(n=53)	**▲ 13.2**	**(▲ 2.1)**	**▲ 24.0**	**▲ 27.2**	**0.0**	**▲ 33.3**	**0.0**
前回調査比	－	－	－	(▲ 27.2)	(8.0)	(▲ 2.5)	(0.0)
先行き見通し	**▲ 24.5**	**－**	**－**	**▲ 27.3**	**▲ 20.8**	**▲ 25.0**	**▲ 33.3**
今回調査比	(▲ 11.3)	－	－	(▲ 0.1)	(▲ 20.8)	(8.3)	(▲ 33.3)

⑤　庄内田川

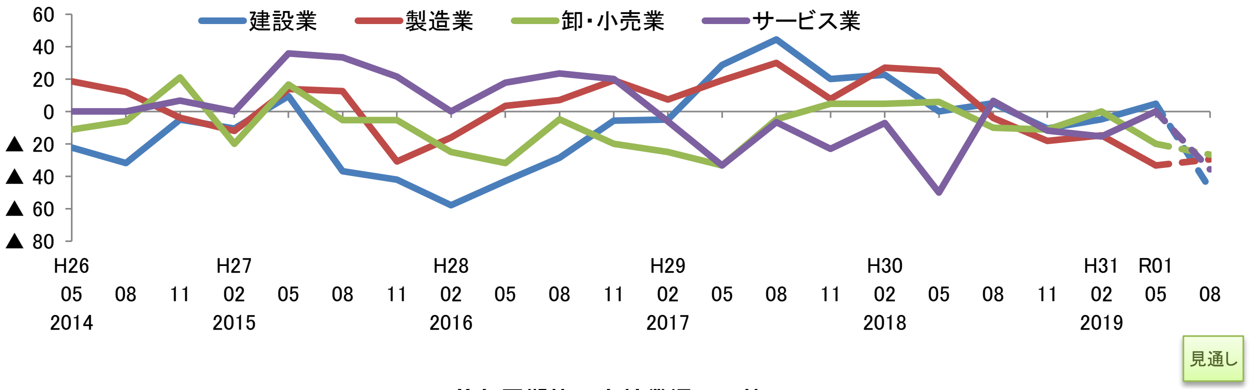
「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」は▲14.3（前回調査比 5.5 ポイント下落）と悪化となった。業種別にみると、建設業とサービス業で改善したものの、製造業と卸・小売業で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」が▲35.1（今回調査比 20.8 ポイント下落）と大幅な悪化が見込まれている。

図表 21　庄内田川「自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



図表 22　庄内田川「業種別・自社業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況ＤＩ値

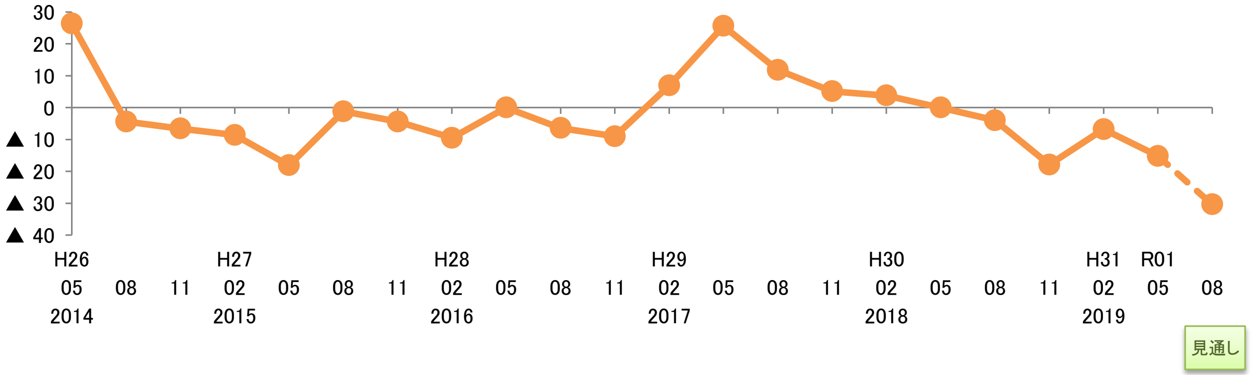
庄内田川	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
調査時（サンプル数）	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービス
H 30.05(n=79)	▲ 1.3	(▲ 15.7)	▲ 10.8	0.0	25.0	5.9	▲ 50.0
H 30.08(n=80)	▲ 1.2	(0.1)	▲ 25.3	5.0	▲ 4.0	▲ 10.0	6.6
H 30.11(n=76)	▲ 13.2	(▲ 12.0)	▲ 16.2	▲ 10.5	▲ 18.2	▲ 11.1	▲ 11.8
H 31.02(n=80)	▲ 8.8	(4.4)	▲ 14.5	▲ 4.8	▲ 14.8	0.0	▲ 15.4
R 01.05(n=77)	▲ 14.3	(▲ 5.5)	▲ 31.3	4.7	▲ 33.3	▲ 20.0	0.0
前回調査比	－	－	－	(9.5)	(▲ 18.5)	(▲ 20.0)	(15.4)
先行き見通し	▲ 35.1	－	－	▲ 47.6	▲ 29.6	▲ 26.6	▲ 35.7
今回調査比	(▲ 20.8)	－	－	(▲ 52.3)	(3.7)	(▲ 6.6)	(▲ 35.7)

⑥ 庄内飽海

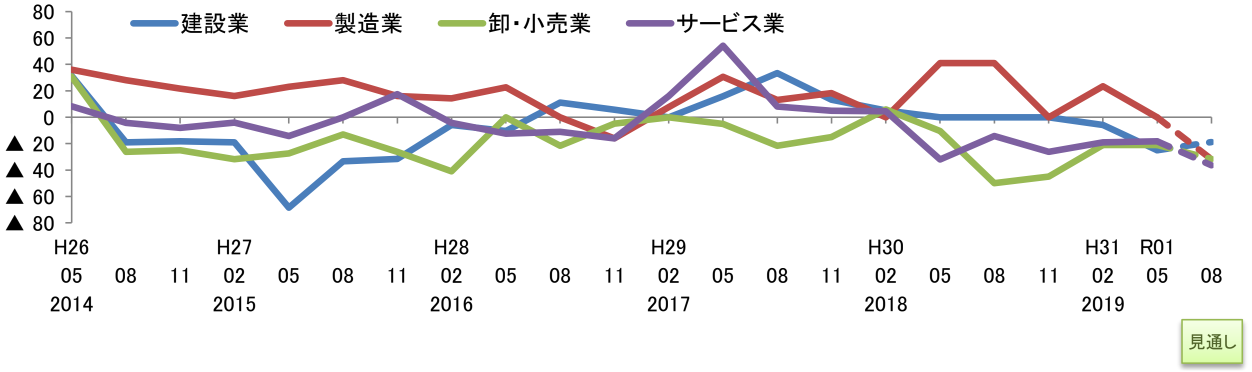
「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」は▲15.2（前回調査比 8.4 ポイント下落）と悪化となった。業種別にみると、卸・小売業とサービス業でほぼ横ばいないし横ばい圏内の動きとなったものの、建設業と製造業で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」が▲30.4（今回調査比 15.2 ポイント下落）とさらなる悪化の見込みとなっている。

図表 23 庄内飽海「自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



図表 24 庄内飽海「業種別・自社の業況ＤＩ値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況ＤＩ値

庄内飽海	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
調査時（サンプル数）	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービス
H 30.05(n=81)	0.0	(▲ 3.8)	▲ 17.5	0.0	40.9	▲ 10.5	▲ 31.9
H 30.08(n=76)	▲ 4.0	(▲ 4.0)	▲ 13.6	0.0	40.9	▲ 50.0	▲ 14.3
H 30.11(n=84)	▲ 17.9	(▲ 13.9)	4.0	0.0	0.0	▲ 45.0	▲ 26.1
H 31.02(n=74)	▲ 6.8	(11.1)	▲ 15.5	▲ 5.9	23.5	▲ 21.0	▲ 19.0
R 01.05(n=79)	▲ 15.2	(▲ 8.4)	▲ 18.9	▲ 25.0	0.0	▲ 21.1	▲ 18.2
前回調査比	－	－	－	(▲ 19.1)	(▲ 23.5)	(▲ 0.1)	(0.8)
先行き見通し	▲ 30.4	－	－	▲ 18.8	▲ 31.8	▲ 31.5	▲ 36.4
今回調査比	(▲ 15.2)	－	－	(6.2)	(▲ 31.8)	(▲ 10.4)	(▲ 18.2)

II. 景気の天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI≧30	30>DI≧10	10>DI≧▲10	▲10>DI≧▲30	▲30>DI

今期の概況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全 業 種	まあまあ	まあまあ	まあまあ	好調	不振	不振	不振
建 設 業	まあまあ	特に好調	まあまあ	好調	不振	まあまあ	不振
製 造 業	まあまあ	まあまあ	まあまあ	好調	まあまあ	きわめて不振	まあまあ
卸・小売業	不振	不振	好調	好調	きわめて不振	不振	不振
サービス業	まあまあ	好調	好調	特に好調	まあまあ	まあまあ	不振

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全 業 種	不振	不振	まあまあ	まあまあ	不振	きわめて不振	きわめて不振
建 設 業	不振	不振	まあまあ	好調	不振	きわめて不振	不振
製 造 業	不振	まあまあ	まあまあ	まあまあ	不振	不振	きわめて不振
卸・小売業	不振	不振	まあまあ	好調	不振	不振	きわめて不振
サービス業	不振	不振	不振	不振	きわめて不振	きわめて不振	きわめて不振

III. 特別調査

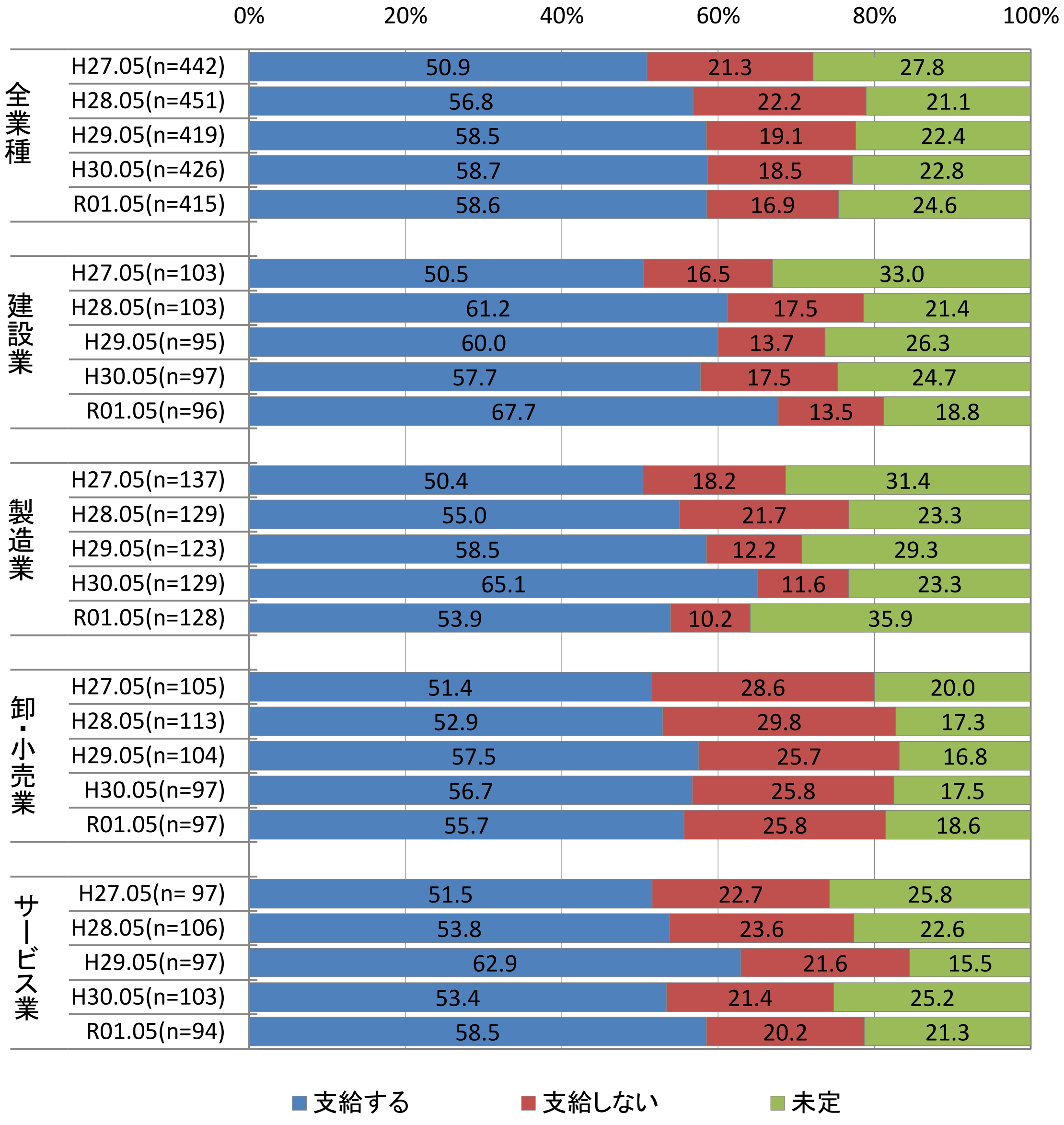
１．夏季ボーナスについて

（１）支給予定動向

夏季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種でみると、「支給する」と回答した企業の割合は 58.6%（前年比 0.1 ポイント低下）と、前年とほぼ同水準となった。

業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 67.7%（前年比 10.0 ポイント上昇）、製造業が 53.9%（前年比 11.2 ポイント低下）、卸・小売業が 55.7%（前年比 1.0 ポイント低下）、サービス業が 58.5%（前年比 5.1 ポイント上昇）となった。

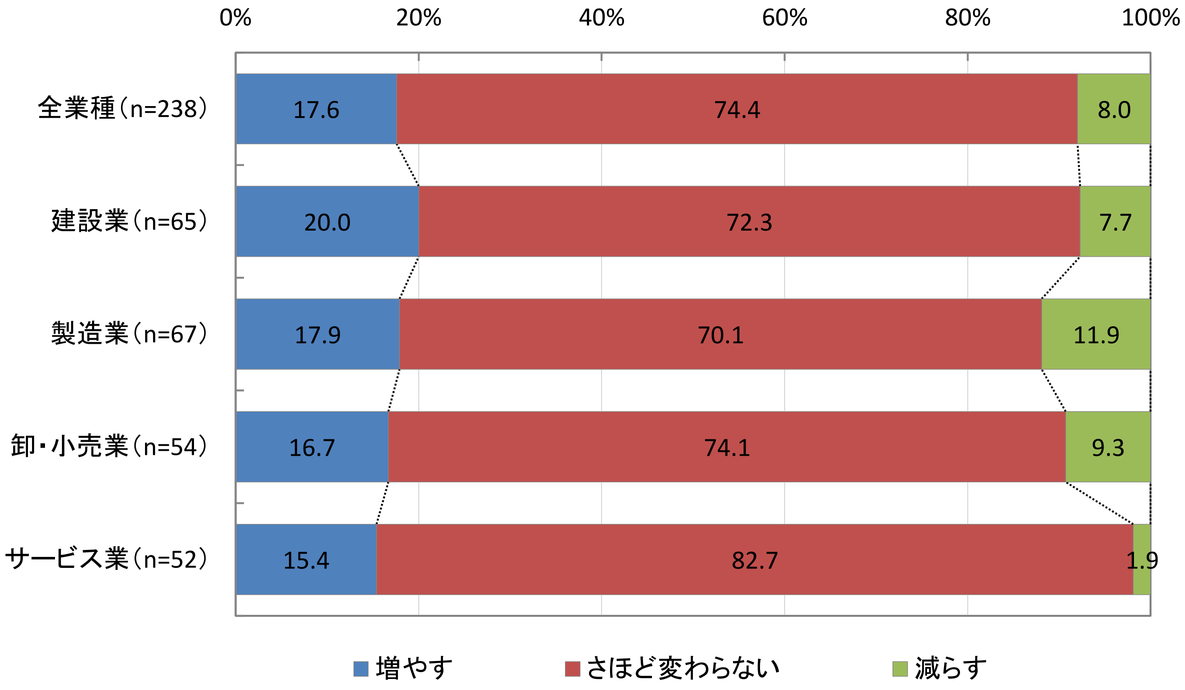
図表 25　業種別　夏季ボーナス支給動向の推移



　また、今季「支給する」と回答した企業に対し、前年夏季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種でみると「さほど変わらない」と回答した企業が 74.4%と最も多く、「増やす」と回答した企業は 17.6%であった。

　業種別にみると、「増やす」と回答した企業は建設業で 20.0%と、他の 3 業種に比べて高くなっている。一方、「減らす」と回答した企業は製造業で 11.9%と高くなっている。

図表 26　業種別　夏季ボーナスを支給する企業の方針

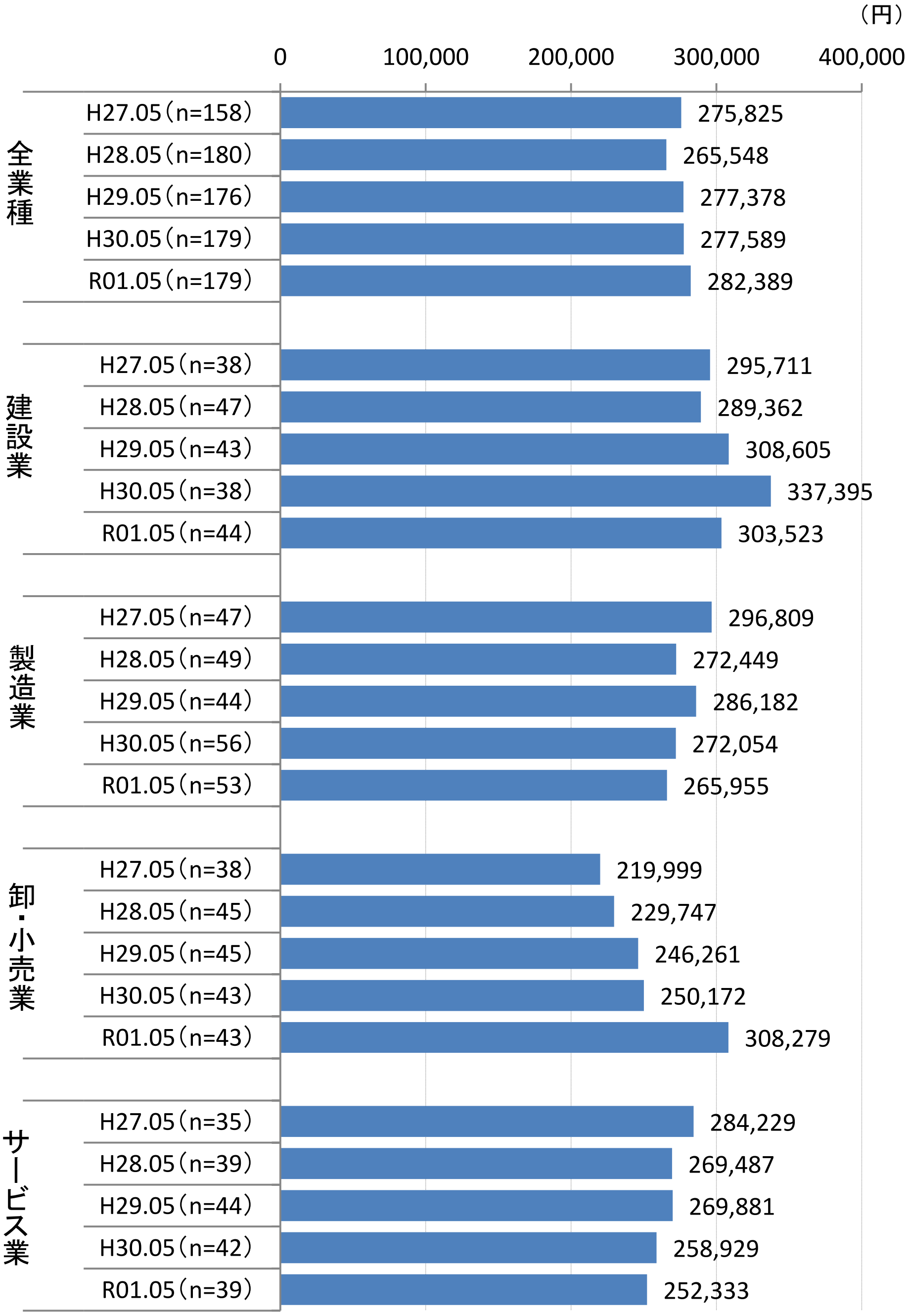


（２）支給予定額

夏季ボーナスの支給予定額については、全業種平均で 282,389 円となり前年よりやや増加となった。

業種別にみると、建設業で前年比 3.4 万円減少、製造業で前年比 0.6 万円減少、サービス業で 0.7 万円減少と 3 業種で減少となり、卸・小売業で増加（前年比 5.8 万円増加）となった。

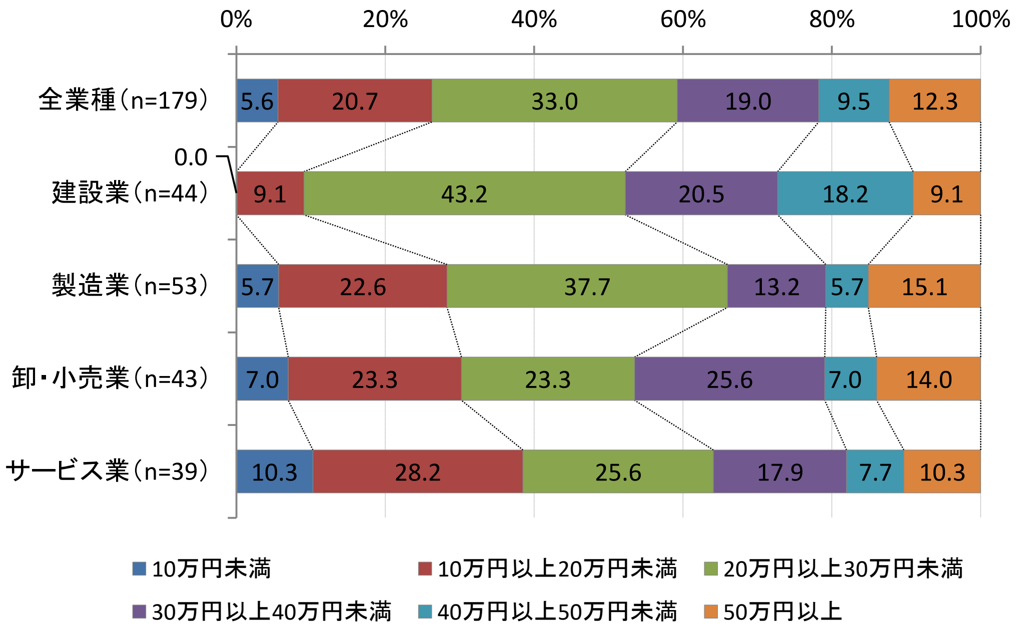
図表 27　夏季ボーナスの平均支給予定額の推移



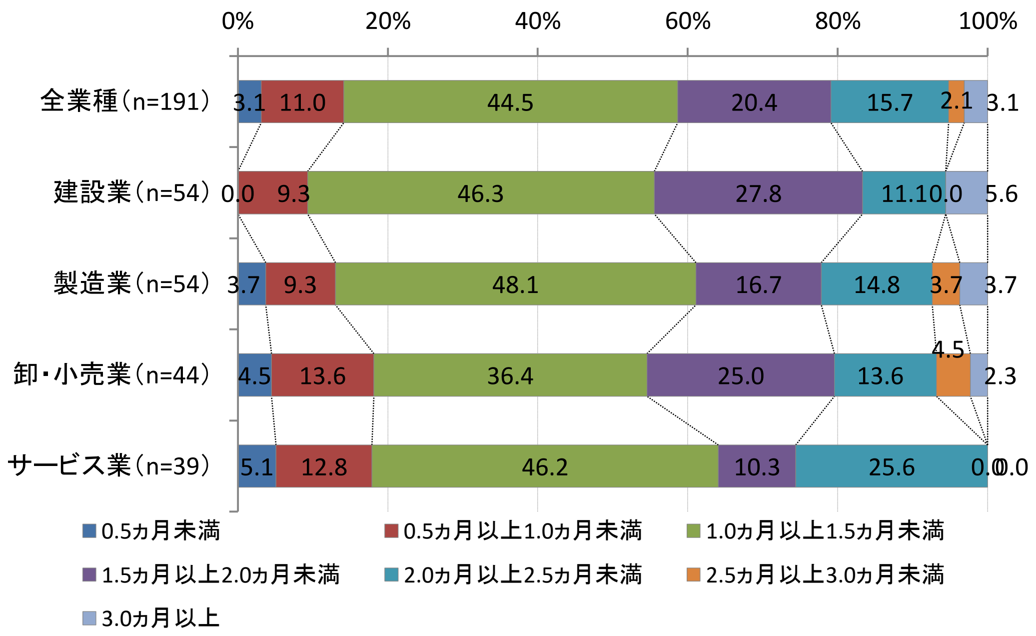
平均支給予定額は、全業種で「20 万円以上 30 万円未満」と回答した企業の割合が最も高く、33.0%となっている。

平均支給予定月数は、全業種で「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」と回答した企業の割合が最も高く、44.5%となっている。

図表 28　業種別　夏季ボーナスの平均支給予定額



図表 29　業種別　夏季ボーナスの平均支給予定月数

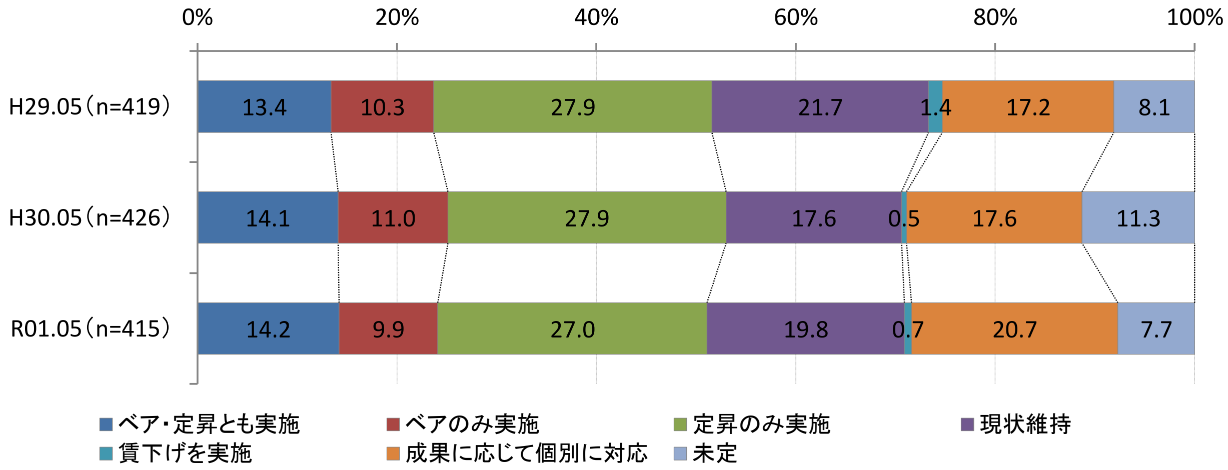


２． 春季以降の賃金改定動向について

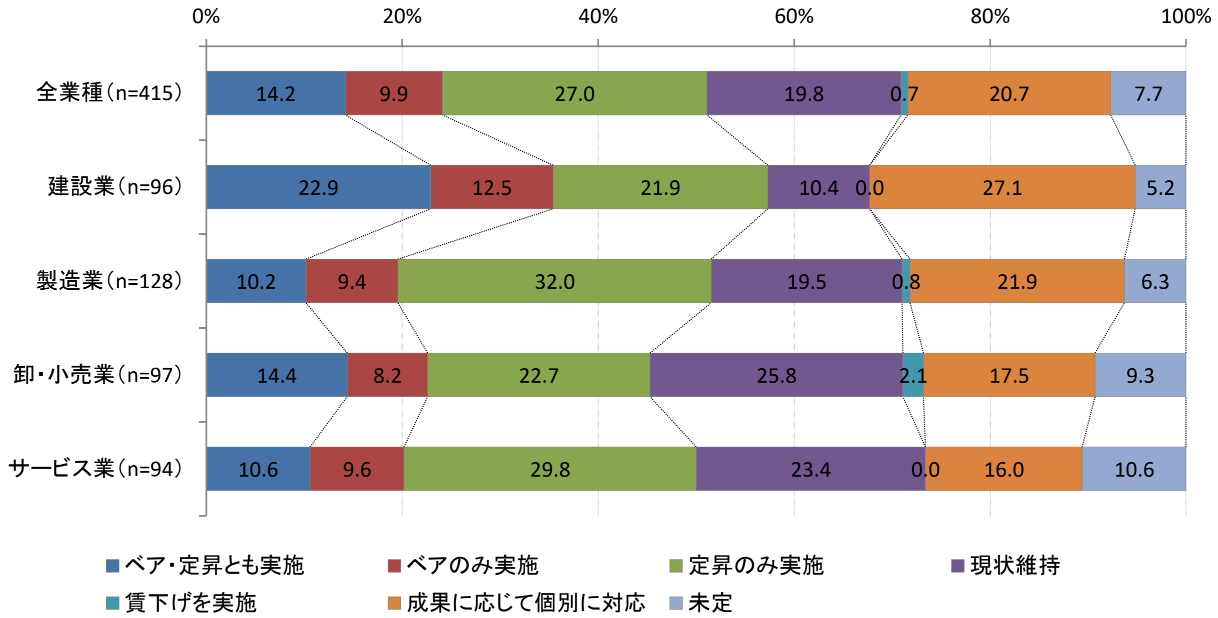
平成 31 年 4 月以降の賃金改定動向（ベースアップや定期昇給を実施する（した）か）を尋ねたところ、賃上げを実施する（した）企業の割合（「ベア・定昇とも実施」+「ベアのみ実施」+「定昇のみ実施」）は、全業種で 51.1%と前年に比べて 1.9 ポイント低下したものの、引き続き半数以上を占めた。

業種別にみると、賃上げを実施する（した）企業の割合は建設業で 57.3%と最も高く、以下は製造業(51.6%)、サービス業（50.0%）、卸・小売業（45.3%）の順となっている。

図表 30　全業種　賃金改定動向の推移



図表 31　業種別　賃金改定動向



＜参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率＞

（サンプル数：社）

	建設	製造	卸・小売	サービス	合　計
村山南部	22	35	46	55	158
村山北部	20	34	17	18	89
最　上	21	18	10	18	67
置　賜	23	31	25	13	92
庄内田川	30	38	29	28	125
庄内飽海	34	35	32	37	138
合　計	150	191	159	169	**669**

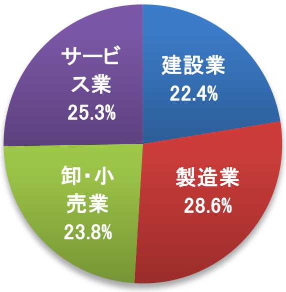
（回答数：社）

	建設	製造	卸・小売	サービス	合　計
村山南部	19	21	30	38	108
村山北部	12	22	14	9	57
最　上	17	12	7	5	41
置　賜	11	24	12	6	53
庄内田川	21	27	15	14	77
庄内飽海	16	22	19	22	79
合　計	96	128	97	94	**415**

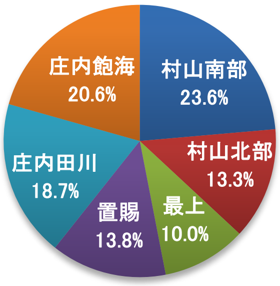
（回答率：％）

	建設	製造	卸・小売	サービス	合　計
村山南部	86.4	60.0	65.2	69.1	68.4
村山北部	60.0	64.7	82.4	50.0	64.0
最　上	81.0	66.7	70.0	27.8	61.2
置　賜	47.8	77.4	48.0	46.2	57.6
庄内田川	70.0	71.1	51.7	50.0	61.6
庄内飽海	47.1	62.9	59.4	59.5	57.2
合　計	64.0	67.0	61.0	55.6	**62.0**

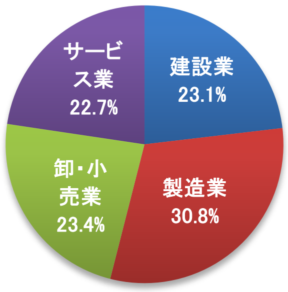
サンプル割合（業種別）



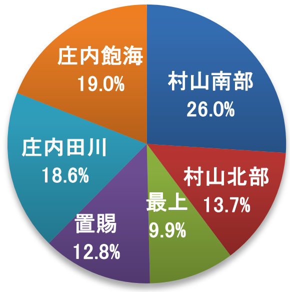
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



＜参考資料Ⅱ：調査の概要＞

●　調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

●　調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部ＦＡＸを利用）

●　調査期間

令和元年5月7日(火)～16日（木）

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最　上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置　賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について3肢択一方式を採っている。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項　目	選択肢　（択一方式）
自社の業況（共通項目）	１．良い　２．さほど変わらない　３．悪い
業界の業況（共通項目）	１．良い　２．さほど変わらない　３．悪い
売上高（建設業を除く）	１．増えた　２．さほど変わらない　３．減った
完成工事高（建設業）	１．増えた　２．さほど変わらない　３．減った
営業利益（共通項目）	１．増えた　２．さほど変わらない　３．減った
人員や人手（共通項目）	１．足りない　２．ちょうどよい　３．余っている
資金繰り（共通項目）	１．楽になった　２．さほど変わらない　３．厳しい
原材料等の仕入価格（製造業のみ）	１．下がった　２．さほど変わらない　３．上がった
製（商）品の仕入価（卸・小売業のみ）	１．下がった　２．さほど変わらない　３．上がった
在庫状況（製造業）	１．増えた　２．さほど変わらない　３．減った
手持工事高（建設業）	１．増えた　２．さほど変わらない　３．減った

（注）各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ3肢択一方式を採っている

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれＤＩ値を算出する。ＤＩ値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、算出方法は次の通り
例）自社の業況ＤＩ値
＝（「1. 良い」と回答した企業の割合）－（「3. 悪い」と回答した企業の割合）
たとえば「自社の業況ＤＩ値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向（良くなっているか、悪くなっているか）についても分かる
ちなみに、他のＤＩ値についても同様に、選択肢「1.　」（「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと）を選んだ企業の割合から選択肢「3.　」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

＜お知らせ＞

ＦＳＮ会員専用ホームページ（http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi）にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ（http://www.f-ric.co.jp/）「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

＜お問い合わせ先＞

株式会社フィデア総合研究所
地域政策コンサルティンググループ　熊本　均　／松田　美由紀
〒９９０－００４３　山形県山形市本町１－４－２１荘銀山形ビル８Ｆ
ＴＥＬ：０２３－６２６－９０１７　ＦＡＸ：０２３－６２６－９０３８
E-mail：kenkyuu@f-ric.co.jp　ＵＲＬ：http://www.f-ric.co.jp/